

中国都市部既婚女性の出産意識とその影響要因

畢 舜堯（奈良女子大学）

目的

近年、長い間で中国に実施された「一人っ子政策」が終わりを迎え、2016年から全ての夫婦が子どもを二人まで産めることが許可されるようになった。出産政策の緩和を機に、既婚女性の出産意欲、とくに農村部より「一人っ子政策」が徹底的に実施された都市部の既婚女性が子供を持つことに対してどのように変わったのか。

本報告の目的は、中国における「全面二孩」という出産政策の実施を背景に、都市部に在住している既婚女性の出産意欲の現状を把握した上で、彼らの出産意識に影響を与える要因を明らかにしたい。

方法

本調査は2017年12月から2018年1月まで、約一ヶ月にかけて中国大連市で暮らしている20代から40代までの既婚女性90名を対象にして、アンケート調査を行った（回収した有効票86票、有効回収率は95.6%である）。質問項目は「出産の実態」、「出産意識」と「出産意識に影響を与える要因」の三つを設定した。本報告ではアンケート調査から得られたデータをもとにして考察した。

結果及び考察

中国において、出産政策の緩和とともに、都市部の既婚女性は子どもを二人っ子まで産みたいという意識が強く存在しているが、実際の出産行動を見ると、出産意識と出産行動の間に、大きなギャップが存在していることがうかがえた。また、子供の性別選好に関して、子供を一人っ子だけ産む場合は、8割近くの既婚女性は男の子より、女の子を産みたいと考えている。子どもを二人産む場合、男女一人ずつほしいと考えている人が圧倒的に多い。つまり、中国において、伝統的な「男女双全」の意識が今でも根強く存在するといえる。

既婚女性の出産意欲に影響を与える要因として、明らかになったのは、下記の通りである。①育児コストの経済的な要因の影響、②親からのサポートの有無の影響。すなわち、親と同居している既婚女性のほうが、子供を多めに産みたい意識が高い傾向がうかがえた。③親にとって子どもの情緒的な価値が多くなった。つまり、子供を産み育てることから得られた精神的な豊かさなどの個人意識が、既婚女性の出産意識に大きな影響を与えている。

本研究は、都市部既婚女性の出産意識と影響要因を明確することによって、女性の出産意識を向上するために政府側や社会側の対策として、何が必要なかを示唆えられたらと考えられる。また、よりよく効果的な対策を構築するために、今後、女性側の意識だけにとどまらず、男性側の意見に耳を傾ける必要もある。

キーワード：都市部 既婚女性 出産意識